

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 21 日現在

機関番号：54301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24520075

研究課題名(和文) 近現代日本の民間精神療法に関する宗教史的考究 身体と社会の観点から

研究課題名(英文) A HISTORICAL STUDY OF THE PHYSICAL AND SOCIAL ASPECTS OF POPULAR MIND CURES IN MODERN JAPAN

研究代表者

吉永 進一 (Yoshinaga, Shin'ichi)

舞鶴工業高等専門学校・その他部局等・教授

研究者番号：90271600

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：本科研では、明治末期より昭和初期にかけて全盛を迎えた民間の精神療法(あるいは霊術)について、同時代における身体技法の世界的な流行、国家主義的運動との関わりという両面から研究を行った。前者では桑原俊郎による催眠術の呪術化、ニューソートやラマチャラカのヨガ呼吸法の流入、後者では井上哲次郎による儒教の近代化、静坐法などの修養の流行という系譜を分析した。これらを元に田中守平の太霊道についての研究を進め、他方では白井禊男の霊気療法、三井甲之のタナスエの道、そして現在のレイキヒーリングに至る歴史を明らかにした。また、その成果はIAHR(国際宗教史学会)を含む国内外の学会で発表された。

研究成果の概要(英文)：This project dealt with popular “psychotherapies” (seishin ryoho or reijutsu), which were akin to “mind-cure” in the USA. These therapies were in vogue from the end of the Meiji era to the early years of the Showa era. We found that the practices of the therapies were heavily influenced by the hypnotism of KUWABARA Toshiro, as well as the yogic breathing of Ramacharaka and other New Thought practices from America. We also found that the lack of meditative practices in the Confucianism modernized by INOUE Tetsujiro opened the way to the boom of self-cultivation (shuyo), like OKADA Torajiro's still-sitting method. The combination of Kuwabara's psychical interpretation of “mind power” (seishin ryoku) and the physical practices of shuyo produced the practices of seishin ryoho. Based on these findings, we pursued the research into two representative seishin ryoho Taireido and USUI Mikao's Reiki Ryoho and succeeded in clarifying the genealogy of Reiki Healing in the USA.

研究分野：宗教学

キーワード：精神療法 霊術 太霊道 霊気 ラマチャラカ 田中守平 白井禊男 三井甲之

1. 研究開始当初の背景

大正期を中心に隆盛を誇った民間の「精神療法」あるいは「霊術」については、井村宏次『霊術家の饗宴』(心交社、1984)をはじめ、先行研究はいくつかあるが、通史的研究が不十分であり、思想と技法の淵源が十分考察されてこなかった。さらにグローバルな視点からの考察に欠けるといった不満足な点がある。本科研は、それら三点を補う方向で研究を開始した。

研究代表者は、すでに科研「心理主義時代における宗教と心理療法の内在的関係に関する宗教哲学的研究」(代表:岩田文昭、課題番号13410010、平成13~15)において、精神療法関係の書籍を調査し、精神療法という用語の及ぶ範囲について理解を得た。また、当時の催眠術や精神療法の書籍を集めた『日本人の身・心・霊』15巻(クレス出版、2004)、『催眠術の黎明』7巻(クレス出版、2006)の編集ならびに論文「精神の力」(『人体科学』16(1)、2007)、「太霊と国家」(『人体科学』17(1)、2008)などで、この分野の研究を進めてきた。また、研究分担者の平野直子はレイキヒーリングの研究者であり、塚田穂高は宗教と政治の問題を考究してきている。さらに研究協力者として、奥村大介(日本学術振興会研究員)、葛西賢太(宗教情報センター)、Ioannis Gaitanides(千葉大学助教)、栗田英彦(日本学術振興会研究員)、Justin Stein(トロント大学院生)、田野尻哲郎(東京大学院生)、並木英子(国際基督教大学院生)、Philip Deslippe(カリフォルニア大学サンタバーバラ校院生)、中尾麻伊香(立命館大研究員)、野村英登(二松学舎大学非常勤講師)の研究参加を得ることができた。

2. 研究の目的

本研究では、現在のスピリチュアリティ文化(あるいはいわゆるセラピー文化)と戦前流行した民間精神療法をつなぐ包括的な宗教史的視点を構築し、それらを日本と欧米の宗教=治療文化の観点から分析し、近代宗教史の中に位置づけることを目的とする。

歴史的な精神療法運動の中でも、最大の団体であった太霊道と、現在世界的に流行しているレイキ・ヒーリングの起源となった臼井霊気療法を特に研究の中心に据える。

3. 研究の方法

一次資料のデジタル化による情報共有を行う。

メーリングリストと研究会を通じて、国内外の研究者との情報交換、意見交換を行う。

4. 研究成果

精神療法と国家主義をめぐる思想史についての研究を進めることができた。井上哲

次郎における儒教の近代化による身体性の欠落(野村英登)、その補完としての修養の流行(栗田英彦)、そして太霊道などの国家主義思想が組み込まれた精神療法運動(吉永進一)、そして三井甲之のシキシマノミチの身体性補完としての手のひら療治(塚田穂高)という明治から昭和にかけての流れが明らかになった。

日本の精神療法からレイキ・ヒーリングへ至る発展過程については、日本の精神療法へのアメリカ生まれのヨガ、ラマチャラカの影響(Philip Deslippe)、次に大正期の精神療法ブームの中での臼井霊気療法の成立(平野直子)、そして臼井霊気療法がハワイの日系移民を經由してアメリカでレイキ・ヒーリングとなる過程(Justin Stein)、最後に現代日本のスピリチュアル・セラピーにおけるレイキの位置(ヤニス・ガイタニ德斯)という、太平洋を往還してレイキに至る流れを解明した。

太霊道跡地の見学、子孫宅に残る資料の調査、『太霊道』誌のデジタル化を行い、科研報告書(DVD版)にて成果を発表した(吉永進一)。

精神療法の理論的基盤をなす、精妙な流体、あるいはエネルギー概念についての科学の文化史的な研究であり、この点ではウィルヘルム・ライヒのオルゴン・エネルギー論(奥山大介)、原子核をめぐる文化とスピリチュアリズムとの錯綜(中尾麻伊香)といった成果があった。

岡田式静坐法を伝える数少ない拠点として息の長い活動を続けてきた京都静坐社が、その活動を閉じるにあたって、資料の整理を行い、機関誌『静坐』を含む多数の貴重な書籍類を日本文化研究センターに寄贈することができた(吉永進一、栗田英彦)。

人文書院に残された日本心靈学会関係の会員名簿、機関誌などの資料が発見され、本研究会(吉永進一、栗田英彦など)で調査に着手した。現在は一柳廣孝を代表とする科研「デジタルアーカイブ構築による人文書院戦前期資料の多面的文化史研究」(15K02241)に引き継がれ、調査が進められている。

以上の成果をまとめ、太霊道、霊気療法についての報告論文、研究会資料、一次資料を収めたDVD版の報告書を作成した。

一般向けの講演会として以下のようなものを実施した。吉永進一は、2014年7月4日~8月31日岐阜県博物館で開催された「奇なるものへの挑戦 明治大正/異端の科学」展の展示に協力し、8月24日は、講演「催眠術から霊術へ」を行った。栗田英彦と吉永進

一は、2015年6月26日京大人文研連続セミナー「日本宗教史再入門」の一環として、「治せば分かる 霊術家たちの不思議な世界」という講演を行う。吉永は、同年6月28日、京都文教大心理学部主催シンポジウム「心と魂の深みを探る」で、「体を癒す心、心を癒す体 近代日本の民間精神療法」を発表した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計6件)

野村英登「井上円了における催眠術と瞑想法」『エコ・フィロソフィ』研究』(東洋大学)7別冊シンポジウム・研究会編、査読無、2013年、21-30頁、

https://toyo.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=5311&item_no=1&page_id=13&block_id=17

栗田英彦「国際日本文化研究センター所蔵静坐社資料--解説と目録--」『日本研究』47号、査読無、2013年、pp.239-267

<http://ci.nii.ac.jp/naid/120005681403>

栗田英彦「真宗僧侶と岡田式静坐法」『近代仏教』21号、査読有、2014年、pp.116-144

野村英登「玉利喜造の霊気説からみる自然と身体」『エコ・フィロソフィ』研究』(東洋大学)9、査読無、2015年、pp.109-118、

<https://www.toyo.ac.jp/uploaded/attachment/16226.pdf>

栗田英彦「明治三〇年代における「修養」概念と将来の宗教の構想」『宗教研究』89巻3号、査読有、2015年、pp.471-494、
http://ci.nii.ac.jp/els/110010007024.pdf?id=ART0010566934&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order_no=&ppv_type=0&lang_sw=&no=1466470691&cp=

HIRANO, Naoko, "The Birth of Reiki and Psycho-spiritual therapy in the 1920s-1930s Japan: The influence of "American metaphysical religion" *Japanese Religions* no. 40、査読有、2016年、pp.65-83

[学会発表](計5件)

2013年度日本宗教学会パネル「近現代日本の民間精神療法の展開」

実施日：2013年9月8日

会場：國學院大学

第一報告 平野直子(早稲田大学)「宗教・医療・精神療法 昭和戦前期における差異化の言説と困難」

第二報告 野村英登(二松学舎大学)「瞑想における姿勢の要求と身体観」

第三報告 栗田英彦(東北大学)「岡田式静坐法の応用例 昭和初期『静坐』誌を資料として」

第四報告 塚田穂高(国学院大学)「新宗教の発生・展開過程における「精神療法」の位置」

第五報告 ヤニス・ガイタニデス(千葉大)「精神療法」の医療化 スピリチュアル・セラピーの分析から

コメンテータ 對馬路人

司会 塚田穂高

『宗教研究』第87巻別冊p.84-91

<http://ci.nii.ac.jp/naid/110009820657>

2014年度日本宗教学会パネル「近代日本の修養・精神療法・新宗教における身体論と国家論」

実施日：2014年9月14日

会場：同志社大学

第一報告 野村英登(二松学舎大学)「江戸儒学における政治と身体」

第二報告 栗田英彦(東北大学)「忠義を行わず 筧克彦から佐藤通次にみえる身体 = 国家論の系譜」

第三報告 塚田穂高(国学院大学)「霊術と国家観 三井甲之の手のひら療治」

第四報告 永岡崇「民衆宗教の政治性とは何か」

代表者・司会・コメント 吉永進一

『宗教研究』第88巻別冊p.105-112

<http://ci.nii.ac.jp/naid/110009933283>

Symposium: The Invention of Hypnotism and Yoga: America, Japan, Russia, and Beyond"

Date: April 20, 2015

Venue: University of California, Santa Barbara

YOSHINAGA, Shin'ichi, "Hypnotism enchanted: Kuwabara Toshiro and the beginning of Japanese "metaphysical" healing in Meiji Japan"

Philip Deslippe, "How Mental Healing Birted Yoga in America,Brought it to Japan and Russia, and Back Again"

IAHR (International Association for History of Religions) Panel "Healing Practices and Modern Esoteric Currents between Japan and the U.S."

Date: August 25, 2015

Venue: University of Erfurt (Germany)

Philip Deslippe "Yogi Ramacharaka and the Transnational Diffusion of Modern Yoga"

Naoko Hirano "American Metaphysical Religion in *Seishin Ryōhō* and Reiki Ryōhō in 1920s-1930s Japan"

Hidehiko Kurita, "Breathing Methods as a

Crossroad between the Localization of Western Ideas and the Acculturation of Japanese Tradition”

Justin Stein, “Trans-Pacific Transculturation: Usui Reiki Ryōhō and Reiki Healing, 1936-1986”

Respondents: Helen Hardacre, Shin'ichi Yoshinaga

Panel Chair: Ioannis Gaitanidis

International Workshop
“Modernization, and Spiritual, Mental and Physical Practices: From Yoga to Reiki”

実施日：2015年12月12日、13日

会場：京都大学人文科学研究所

Philip Deslippe, “Yogi Ramacharaka: Physical Culture, Metaphysical Tradition, and Cultural Influence”

YOSHINAGA, Shin'ichi “Taireidō: the Hub of Japanese Mind-Cure Healers in Taisho Era”

KURITA, Hidehiko “Buddhism, Mind-Cure, and Nationalism: Fujita Reisai and his Breathing Techniques”

〔図書〕(計3件)

塚田穂高、花伝社、『宗教と政治の転軸点』、2015、393

YOSHINAGA, Shin'ichi, et al., Routledge, *Religion and Psychotherapy in Modern Japan*, 2015, 300 (YOSHINAGA, Shin'ichi “The Birth of Japanese mind cure methods” 76-102)

平野直子・塚田穂高、春秋社、井上順孝責任編集・宗教情報リサーチセンター編集『オウム真理教を検証する そのうちとソトの境界線』、2015、360(執筆分 平野直子・塚田穂高「メディア報道への宗教情報リテラシー 「専門家」が語ったことを手がかりに」213-255)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.maizuru-ct.ac.jp/human/yosinaga/index.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

吉永進一 (YOSHINAGA, Shin'ichi)

舞鶴工業高等専門学校・人文科学部門・教授

研究者番号：90271600

(2) 研究分担者

平野直子 (HIRANO, Naoko)

早稲田大学・文学学術院・助手

研究者番号：10608433

塚田穂高 (TSUKADA, Hotaka)

國學院大学・その他部局・助教

研究者番号：40580395

(3) 連携研究者

()

研究者番号：